FUKUSHIMA 21 Rotary

# WEEKLY REPORT

福島 21ロータリークラブ 会報

■国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区
福島 21 ロータリークラブ
2023-2024 年度 会長 小林 利光 幹事 渡邉 邦彦
■例会場 グランパークホテルエクセル福島恵比寿
■例会日 毎週木曜日（18：30）

新年会号
2024.1.4

2023-24 RI テーマ
世界に希望を生み出そう

## 2024年1月4日（木）「市内ロータリークラブ合同新年会＆クラブ新年会」

福島県知事
**内堀 雅雄 様**

**明るい未来へ、「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」**

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行したことから、県内においても様々な催しが再開されるなど、コロナ禍前の日常を徐々に取り戻しつつあることを実感できた一年でありました。

また、震災と原発事故から間もなく１３年が経過する中、避難指示区域が縮小したほか、福島国際研究教育機構（Ｆ－ＲＥＩ）が始動するなど、明るい光が一層の強まりを見せてまいりました。さらに、震災後、５５の国・地域で行われた県産農林水産物の輸入規制は７つの国・地域にまで減少し、県内への移住者数や新規就農者数が過去最多を更新するなど、これまでの挑戦が目に見える形となって現れております。一方で、未曾有の複合災害からの復興・再生、急激に進む人口減少や度重なる自然災害への対応など、本県は困難な課題が山積しております。特に、ＡＬＰＳ処理水の問題は、今後数十年にわたる長い取組が必要となります。県といたしましては、引き続き、これまでの挑戦を「シンカ（進化・深化・新化）」させながら、様々な課題に全庁一丸となって取り組んでまいります。まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、復興の状況に応じた被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境の整備などに取り組むとともに、廃炉と汚染水・処理水対策や、風評の払拭と風化の防止などに着実に取り組んでまいります。次に、人口減少対策につきましては、妊娠・出産・子育ての希望を叶える環境づくりとともに、若者等の県内定着や移住・定住の促進などに取り組んでまいります。さらに、台風第１３号に伴う大雨災害からの復旧につきましては、被災された方々の一日も早い生活再建や事業・生業の再生、公共施設の早期復旧に向けた取組を進めてまいります。加えて、厳しい状況にある本県の健康指標については、オール福島の体制で健康づくりに取り組むなど、県民の皆様の健康増進を積極的に推進してまいります。

福島県が抱える課題は複雑であり、解決には長い時間が必要となります。だからこそ、総合計画に掲げた目標を「ひとつ、ひとつ、実現」し、県民の皆様お一人お一人が将来に夢や希望を持ち、豊かさや幸せを実感することができる福島の未来を創り上げるため、全力で挑戦を続けてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

福島市長
**木幡 浩 様**

明けましておめでとうございます。

市内ロータリークラブの皆様には長年にわたり、地域に密着した社会奉仕活動や次代を担う子どもたちや外国人への支援などを通し、持続可能な地域づくりに大きな成果をあげてこられたことに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、昨年は、新年早々、ロータリアンのひとりでもある古関裕而氏の野球殿堂入りに始まり、５月のふくしまシティハーフマラソン、夏の花火大会やわらじまつり、大相撲荒汐部屋の合宿、そして秋の全早慶野球戦などにより、ムードが上向き、コロナ禍からの回復が進んできました。

一方で、人口減少を始め、近年の物価高騰など、諸情勢については様々な課題が山積しています。

人口減少問題に対応するべく、子育て支援にも積極的に取り組んだ結果、昨年は、東北では初となる「日本子育て支援大賞」を受賞することができました。また、12月には日本経済新聞社等による「共働き子育てしやすい街２０２３ランキング」において、東北１位、全国８位となりました。１１月に開催された地区大会記念事業として「福島市子ども・子育て基金」に貴会よりご寄付をいただき、ありがとうございます。有効に活用し、引き続き、本市ならではの施策を充実して、「子育てと教育で選ばれるまち」を目指してまいります。

また、厳しい経済情勢は、福島市のまちづくりにも、駅前再開発の延期や西口大型商業施設の撤退など、大きな影響を与えています。こうした状況のなかでも、未来への展望をもって東西一体的なまちづくりに官民連携で取り組んでまいります。

市としては、市民の皆様と力を合わせ、数々の困難に対しても受け身の対応に止まらず、先を見据え、格段の前進につながるよう行動していまいります。

崇高なロータリーの理念のもと、皆様が地域社会のリーダーとして各分野で取り組まれている活動は、市が進める市民共創のまちづくりをけん引する原動力となるものです。皆様とともに、福島市の新ステージづくりに挑戦してまいりたいと考えております。今後とも、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとって健康で幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げ、挨拶といたします。

国際ロータリー第 2530 地区
2023－24 年度
**右近 八郎ガバナー**

改めまして新年おめでとうございます。たまたま現ガバナーの私が福島 RCクラブ所属ということで、この場でご挨拶させていただきます。県北からガバナーが輩出されるのが原則として４年一度なので、この挨拶もオリンピックのようなもので、余計な挨拶のお時間をいただきありがとうございます。

現在県北地域には13のクラブがあり、二本松市に２つ、伊達市に３つ、福島市内には８クラブということになります。歴史的経緯のためになぜか飯坂 RCを除いた７クラブで例年合同新年例会が開催されていますが、来年からは飯坂 RCも一緒にするといいですね。

さて県北第一分区には360名ほど、県北第二分区は210名ほど、合計で570名前後の会員が在籍しています。二本松市と伊達市で160名程度、市内８クラブで410名程度の会員数です。この市内８クラブの組織率（人口1000人当たりの会員数）は1.50となっており、地区平均1.24を大きく上回っています。福島市は地区内でも非常に組織率の高い地域になっています。

ところで皆さんは「アンナ・カレーニナの法則」というのをご存じでしょうか。

裕福な家庭はどこも同じようであるが、貧しい家庭はそれぞれに異なる、というものです。

クラブも同様で、活性化しているクラブはどこも同じようであるが、元気のないクラブはそれぞれに異なる、ということです。本日参加していただいている７クラブは元気なクラブばかりで、これは批判ではなくすべてのクラブが似たようなクラブ文化を有しています。しかしながらどのクラブにもそれなりの課題はあるので、常に変わることを厭わずに前進していただければと思います。ガバナー公式訪問を終えて感じるところは、会員数の多寡はクラブ活性化とは直接的には関係していませんが、会員数増加率の大きいクラブと例会出席率の高いクラブは元気なクラブとなっています。

今週の末には早川ガバナーエレクトが国際協議会参加のために出発します。実質的には次年度が開始されておりますが、まだ2023-24年度は６か月を残しています。今年度もさらに充実したロータリー活動を目指して、本日ご参集の７クラブの益々の躍進と会員の皆様のご多幸、ご健勝を祈念しまして、福島市内７クラブの新年合同例会でのガバナー挨拶とさせていただきます。

【出席報告】会員44名　出席者24名　出席率61.53%　出席免除者14名　休会者0名
国際ロータリー第2530地区 県北第一分区　福島21ロータリークラブ
事務所　〒960−8001 福島県福島市天神町13−5　アンビックス5　201号室 TEL：024−525−2331　FAX：024−525−2332
H.P. https://www.fukushima21rc.jp　E-mail　f21rc@fukushima21rc.jp